素　顔　拝　見

歯科矯正学分野

市　川　佳　弥

2024年２月１日付けで歯科矯正学分野の助教を拝命いたしました、市川佳弥（いちかわ　かや）と申します。僭越ではございますが、この場をお借りして自己紹介をさせていただきます。出身は長野県千曲市（小学校低学年までは長野市）ですが、母の出身が新潟県のため長岡市で生まれました。大学は北海道に憧れがあり、北海道医療大学に進学しました。大学卒業後、新潟大学医歯学総合病院歯科総合診療部での研修が決まり、その年から新潟で暮らし始め現在に至ります。生まれは新潟、育ちは長野、大学時代は北海道、就職は新潟と、雪国を転々としていますが、非常に寒がりで冬は苦手です。なぜ暖かい地域に住まないのか、自分でも不思議なほどです。

幼少期は、水泳、習字、バイオリン、クラシックバレエなど、たくさん習い事をしていましたが、ほとんどは身が入らなかったり、転居したことで辞めてしまいました。その中でも唯一クラシックバレエだけは長く続き、高校入学まで10年以上通いました。元々は親に無理やり連れて行かれたため、レッスンに行ってもやりたくない、と頑なに踊らなかったそうです。それでも気が付けば週７日間毎日通うようになっていたのですから、何がどう転ぶかわからないものです。元々体力もなく、身体も硬い方でしたが、バレエを積極的にやるようになった小学校中学年頃からは毎晩筋トレとストレッチをルーティンにしていました。するとみるみるうちに身体が柔らかくなり、筋力がついたことで苦手だった運動も楽しめるようになりました。苦手なことでも困難と思われることでも努力を積み重ねるとできるようになる、その経験が今となっても私にとってコアの部分となっているように思います。

2015年に歯科矯正学分野に入局し、今年で10年目の節目の年となります。大学院入学の際は、矯正歯科と口腔外科どちらへ進むか悩みましたが、元に戻す治療ではなく新しく創り出す創造の医療（前教授、齋藤功先生の言葉）への興味が強く矯正歯科医となる道を選びました。入局当初は単に矯正治療を修得することが目的でしたが、口唇裂・口蓋裂の臨床研究に携わったことで、チームワークの重要性を学びました。口唇裂・口蓋裂の治療は、形成外科、耳鼻咽喉科、言語治療室、口腔外科、小児歯科の先生、歯科衛生士さん、看護師さん等、たくさんのスタッフの方々との連携が必須です。日本全国でも新潟大学のチームワーク力は非常に強いと感じます。このような環境で診療に携わることができ、とても楽しいですし、たくさんの方々に助けていただいて本当に有難く思います。そしてこのチームワークはどんな仕事でも、プライベートにおいてもとても大切なことだと痛感しています。今後は今まで先輩方から学んだことを、少しでも後輩に伝えられるように努めていく所存です。今後ともどうぞ宜しくお願いいたします。

菩提寺山にて
（筆者は左）

予防歯科学分野

星　野　剛　志

2024年２月１日付で予防歯科学分野の助教を拝命いたしました、星野剛志（ほしのたかし）と申します。この度、「素顔拝見」を執筆する機会を頂戴いたしましたので、この場をお借りして自己紹介させていただきます。

出身地は埼玉県の草加市というせんべいが少し

有名な所です。小学生時代は野球、水泳、ピアノ、空手と習い事をこなしていく日々で、中学生時代は野球部で３年間厳しい指導を受けました。高校は、クレヨンしんちゃんの舞台である春日部市にある県立春日部高校に進学し、水泳部に入部しました。平日は２km、土日は３～５km泳ぐなど練習はつらかったですが、男子校ということもあり男同士気を遣うこともなく、自由気ままに過ごしました。高校卒業後は１年間浪人した後、新潟大学に進学しました。部活は軟式野球部とゴルフ部に入部し、良き同期・先輩・後輩と楽しい時間を過ごすことができました。

趣味はMLB二刀流プレーヤーの大谷翔平選手の活躍を観ることです。「遊びたい。飲みたい。いろいろやりたい。そんなんで優勝できるわけないですからね。勝ちたいんだったら野球をやるしかないんです」。彼が20代前半に同僚選手に向けて放った言葉ですが、この一意専心の精神が個人的に好きで、日々彼の活躍を楽しみに過ごしています。また、最近は職場の後輩と出かけたり、みんなで食事に行ったりと、新しい楽しみもできました。

現在の仕事としては、高齢者の口腔機能の現状や実際の検査・評価方法などについて、アジア地域に普及する活動をしています。日本では2018年に「口腔機能低下症」という正式な保険病名がつき、その検査と管理が医療保険に導入されることで注目を浴びるようになりました。一方で、他のアジア地域ではまだ口腔機能に対する評価や対策が進んでいるとは言えない状態です。2050年にはアジアの多くの国で65歳以上の高齢者の割合が14%を超える高齢社会になると予測されています。したがって、いち早く超高齢社会に突入した日本が、高齢者の口腔機能を維持・向上させる重要性について伝えていく必要があり、そのお手伝いをさせていただいています。

最後になりましたが、今後は教育にも携わることでこれまで以上に多くの方々にお世話になると思います。微力ではありますが、一教員として新潟大学に貢献できるよう努めてまいりますので、これからもどうぞよろしくお願いいたします。

顎顔面口腔外科

木　口　哲　郎

顎顔面口腔外科の木口と申します。生まれは埼玉県所沢市なのですが、転勤が多く、北海道を経て２歳から茨城で16年間過ごしました。茨城の中では、土浦市というところが最長10年いました。土浦の花火大会は、長岡とともに日本三大花火に数えられ、秋の涼しい時期に開催されますので、まだの方はぜひ行って見てください（ちなみに三大花火の最後の１つは秋田県大曲です）。

私は2008年に本学44期生として入学しました。学生時代は同期生と飲み会などで付き合いながら（お酒は最弱で少し飲んで顔真っ赤になって終了です）、部活は弓道部に入りました。大学から始めた弓道ですが、２年生の春から団体戦レギュラーになってしまい、先輩の足を引っ張らないよう必死でした。オールデンタルでは、鹿児島や岡山など普段なかなか行く機会のない場所へ遠征に行くことができ、６年間部活動を満喫できました。

2014年に新潟大学を卒業し、Ｂコースで１年研修後、顎外科の大学院に入学しました。院１年は口腔外科と麻酔科の臨床、院２年から歯科薬理学分野で学位研究を行いました。基礎研究で新しい発見が増える楽しさを覚えながら、残りの大学院生活を送っていました。2019年に大学院を卒業し、関連病院（長岡赤十字病院１年、新潟中央病院２年）へ出向しました。３年間どっぷり基礎研究に浸かった自分にとって、久しぶりの埋伏歯抜歯にすら苦戦する日々から始まりましたが、徐々に口腔外科臨床の知識、技能を身に付け、口腔外科学会認定医と有病者歯科医療学会専門医を取得させていただきました。

2022年から大学に戻り、口腔外科関連の仕事に従事していて思うところは、口腔外科を勉強してきて本当によかったという点です。外科処置のみならず有病者の管理や歯科治療なども経験でき、治療の幅が広がります。学生の頃、歯科医師過剰時代と言われて育ってきた世代ですので、一般歯科以外に何か武器となるものを身に付けたい思いで口腔外科に道に進みましたが、ここまで続くと

は自分でも思いませんでした。最終的に口腔外科に残らないとしても口腔外科を少しでも経験していれば将来必ず役に立ちます。進路を決めていない学生や研修医は短期間でも口腔外科研修を検討してみてください。

大学卒業から10年、新潟生活も16年と、気が付けば茨城の生活期間に追いついてしまいました。今となっては、同期は半分以上新潟を離れ、地元で歯科医院の継承や開業、都会への憧れ？から東京進出する人など様々です。44期生で新潟大学に残っているのは、私と義歯診療科の大川先生の２人だけです。

最後に私生活についてですが、週末は生後６か月の息子と遊んだりしています。将来、歯科医師にさせるか未定ですが、順調に育ってくれればと思います。